１３期　アクティブシニアをめざす

日　時：２０２５年７月３日　（木）
場　所：豊中市地域共生センター
テーマ：午前　：元気な生き方（聴覚障がい者の理解と支援）―講師：大江　卓司先生
　　午後　：新しい言語を楽しむ（手話）講師：大江　卓司　先生

【午前】元気な生き方（聴覚障がい者の理解と支援）

私達は日常、色々な音の中で当たり前の生活をしています。
音の無い世界とは、いったいどのようなものなのでしょうか。
今日は大江卓志講師による「ろう者・手話の時代」のお話を手話で手話通訳２名の女性に伝えて頂きました。

＜講師の自己紹介＞
１歳未満で聞こえなくなり、ろう学校幼稚部へ３歳から小５年生まで通い、
６年生で地域の小学校へ２年遅れて４年生に転入されました。
中学時代には、野球部に、そして宇宙人と言われていたこと、当時のプロ野球テレビ中継が夜９時で終わりショックだったこと、高校・大学は剣道部だったこと、
そして１９７０年に大阪手話教室開催、１９７４年には全国手話通訳問題研究会発足とだんだんと全国に手話が広まっていきました。

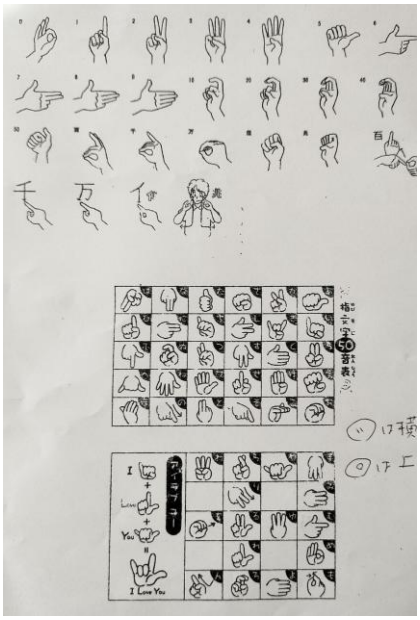
＜感想＞
当時はまだ手話が広まっておらず口話や聴能、文字で勉強され大変努力されたことと思います。
聴覚障がい者にとって手話はとても大切なコミュニケーション方法であり、
お話を聞いていて私達ももう少し万国共通の手話を勉強して豊かなコミュニケーションがとれるようになれば良いなと思いました。

◀SOS バンダナのご紹介

SOS バンダナとは、聴覚障がい者や聞こえにくさを抱える方が、災害時や緊急時に支援を求めるための目印として身につけるバンダナです。
主に、避難所や公共の場などで、「支援が必要であること」や「聞こえない・聞こえにくい」という情報を、周囲に視覚的に伝えるために使われています。

【午後】新しい言語を楽しむ（手話）

午後からは、すぐに役立つ手話単語、数と指文字を教えて頂きました。



＜感想＞
手話の学びを通して、そこには聴覚に障がいをお持ちの方々の「伝えたい」「知りたい」「つながりたい」という強い思いがあって、言葉の壁を超えた優しさと温かさを感じました。
手話は、誰かと心を通わせるための大切な「もう一つの言葉」です。

（２班　岡田）